

# 避難所用ケータイ充電ツールを設置しませんか

これから30年以内に当地が震度6以上の大地震におそわれる確率は60%を超えたそうです。災害の教訓は神戸や中越の地震から参考になることが多くあります。

避難所で人々が困ったことはトイレ問題等、多々ありますが携帯電話のバッテリーの充電でも苦労し避難所の限られたコンセントに人々が群がったそうです。

避難所に電力がこない2-3日はそれも困難だと思われれます。そこでこんなツールを考えてみました。心得がある人なら車のバッテリーを空いている車から外し避難所に持ち込んで何台かの携帯電話を同時に充電する方法です。写真のようにバッテリーにつなぐクリップと充電プラグをセットにした充電ツールを製作しておくのです。携帯電話のメーカーにより充電プラグは決まっていますので3種類を用意すればいいのです。



電力が復旧したら今度はバッテリーからでなく100Vから12Vに変換する装置(市販の車用充電器)が使えます。借用していたバッテリーも満タンに充電して返却できます。こんな装置を市民と行政の協働事業で製作して各避難所等にあらかじめ設置しておけば震災直後の混乱で行政が手一杯のときでも製作にかかわった市民の指導のもとに有効に活用できるでしょう。災害弱者への共助にもなります。

製作費は1セット当たり2万5千円です。

なお、この事業は平成20年度の協働事業提案に選定され、行政と一緒に進めていく事業です。地域から導入の要望があれば地域の有志と一緒に製作し設置も見込めます。ものづくりの大切さを次世代に伝えるのに製作に中高校生を巻き込むのも方法でしょう。

自分だけの対策ならマイカーにシガーライター用充電器を用意すれば良いでしょう。でもこの提案は地域全体の自助・共助さらに災害弱者の救済を目的としています。それを行政との協働事業とし公的資金を活かそうという提案です。この提案に賛同し一緒に製作したい方を募っております。

## 要点は

1. ボランティアとして製作に参加
2. いざというとき自分または知人の空いている車からバッテリーを外し電気が復旧するまで貸す出すこと。
3. 使用方法を地域の皆さんに指導すること。

以上です。賛同される皆さんは別紙の用紙に必要事項を記入し当会に提出ください。

それをもって市危機管理室と協議し事業展開に入ります。

市民活動団体「防災・減災チャレンジャーの会」

連絡先：亀山市東町 1-2-22 ねこの館内 伊藤 090-8550-8318

FAX 82-6209

## 協働事業提案の結果通知書

平成20年11月7日			
平成20年度亀山市協働事業提案の結果について			
亀山市長 田中 亮太			
<small>平成20年度亀山市協働事業提案については、亀山市協働事業提案選定委員会結果の報告を踏まえ、次のとおり決定する。なお、選定委員会の意見を充分に尊重し、事業を進めること。</small>			
記			
事業名	提案団体名	協働の相手方(行政)	結果
1			
2	みんなで作ろう避難所用ケータイ充電ツール事業	防災・減災チャレンジャー	危機管理室
			協働事業として進めること。